

## 「バーサ・F・クローソン宣教師の足跡」

### ヘブライ人への手紙 13 章 7～8 節

聖学院院長・キリスト教センター所長 山口 博

聖学院は 1903 年に開学して以来、本年 2023 年は創立 120 周年を迎えます。聖学院大学は 35 周年です。今年は聖学院のルーツを探る年であり、自分のルーツを確認する年でもあります。皆さんが聖学院大学に入学されたことは、生涯に渡って自分のルーツの一片になるわけです。わたし山口のルーツは聖学院中学校に入学した 60 年前に遡ります。

120 年前は日露戦争が終わったころです。その間には戦争があり、地震があり、コロナ感染症がいろいろなことがありました。もちろん楽しいこともありました。先日のラグビーの試合をご覧になった方もおられると思います。ラグビーボールは必ず後ろへパスをするのがルールです。ボールを受け取った選手は後から来る選手にパスをします。手にした選手はゴールを目指す。相手チームから潰されるシーンがあります。しかし諦めないでスクラムを組んで前に進む姿は感動しますね。

先輩から受け継いだ聖学院というボールを次世代の後輩たちにパスをするのがわれわれの務めではないでしょうか。

聖学院というラグビーボールはどこからスタートしたのでしょうか。今日はバーサ・クローソン(Bertha Fidelia Clawson)についてその足跡を辿りたいと思います。

女子聖学院の記念誌によると、初代女子聖学院長バーサ・フィデリヤ・クローソン Bertha Fidelia Clawson は、1868 年(明治元年)アメリカ合衆国のカンザス Kansas 州で産声をあげました。父はスコッチ・アイルランド系、母はクエーカー派の出身です。彼女の祖父と第 31 代アメリカ大統領ハーバート・フーヴァー Herbert Hoover の祖父とは兄弟でした。バーサは 16 歳の時父母を相次いで亡くしますが、刻苦勉励の甲斐あり大学で BA の学位を取得し卒業しました。アンゴラ・キリスト教会の名高い牧師チャールズ・S・メドバリー Charles S Medbury の薫陶を受け、日本に派遣されることとなります。バーサ 29 歳の時です。彼女を乗せた客船「チャイナ丸」は 1898 年 3 月 7 日サンフランシスコを出帆し、やがて横浜に上陸します。女子聖学院創立に着手した時、バーサ・クローソンは 37 歳になっていました。今から 118 年前の 11 月 1 日、日露戦争が終わって凱旋将軍で連日混雑を極めている頃、築地の一角(東京都中央区明石町 6-24 現在地に石碑あり)に 10 名の生徒と内外 10 人の教師を以て、女子聖学院は開校しました。2年後にアメリカの篤志家 R・A・ロング氏が亡き母マーガレット・K・ロングを記念して寄附した一万ドルを以て、現在のキャンパスになる四千坪の土地を購入し移転しました。時を経て 1967 年には女子聖学院短期大学が設置され、聖学院大学・大学院へと続き今日を迎えています。

わたくしどものルーツの話をしました。学院の真の創設者は主イエス・キリストの父である神様であることはいまでもありません。もう一度ヘブライ人への手紙 13 章 7 節 8 節を読んで終えます。

「あなたがたに神の言葉を語った指導者たちのことを、思い出さない。彼らの生涯の終わりをしっかり見て、その信仰を見倣いなさい。イエス・キリストは、きのうも今日も、また永遠に変わることはない方です」。

永遠に変わらぬ主イエス・キリストを仰ぎつつ、後に続く皆さんが次の 130 周年へとトライしてほしいと願うのです。

2023 年 10 月 10 日 聖学院大学 全学シリーズ礼拝「聖学院 120 周年を覚えて」